

# 第1回行政評価委員会における質問への回答

資料9-1

NO	取組番号・取組名	質 問	回 答	担当課
16	学校教育の充実	<p>成果指標1～5について、実現に向けたサポート体制はどうなっているのか。学校支援ボランティアなど地域を含めた支援、また地域ぐるみの子育てとの関連はどうなっているか。地域でのばらつきがあるのか。</p>	<p>子ども達に対する直接的な教育指導は、学校現場の先生方によって行われており、教育委員会としては、学校や先生方へのサポートを通して、指標の向上に向けて取り組んでいます。指標に関するサポートとしては、「総合学習アプリ」などICT機器の整備、「子どものこころの支援員」の配置、児童生徒理解について共通理解を図る「生徒指導リーフレット」の作成など、学校の実情を踏まえた効果的な支援の内容や環境の調整に努めています。また、「ICTの活用」や「わかる授業」をテーマに、全教職員対象の共通研修から専門研修まで、先生方のニーズや課題意識に応じた、複層的で効果的な研修を実施しています。</p> <p>地域ぐるみの子育てとの関連については、学校教育の充実の成果指標1～5の進捗に、直接的な成果を発揮するものではないものの、間接的に下支えする要因の一つと考えています。施策のうち、学校支援ボランティアは希望する校区や支援活動及び学校からの支援要請の内容に基づいて、行事や授業、施設管理等のサポートを行っています。各学校によって活動内容や支援日数(回数)は異なっていますが、児童のより良い学びの環境づくりに寄与しています。また、「こうみん未来塾」では、講座プログラムから選抜した「学校向けプログラム」を令和4年度から小中学校へ提供しており、うち9校が活用するなど、地域と学校が連携した学びを提供しています。</p>	<p>教育研修所 健やか育成課</p>
26	学校教育の充実	<p>指標値が全体的に減少傾向にある理由を教えてください。構造的な問題があるのでしょうか。</p>	<p>(指標1)ICTの活用については、GIGA端末導入初年度の活用状況を反映したものであり、R4の数値は実際に児童生徒が「良さを実感できる」までの活用は進んでなかったと考えられます。ただし、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、小学校94.7%、中学校93.7%であり、低い値とは考えておりません。今後は、ICTの良さを1人でも多くの児童生徒が実感できるよう引き続き授業改善を図っていきます。</p> <p>(指標2)小学校において、「相談しない」と答える子どもの割合が7%(R3)から10%(R4)と微増している。背景に、アンケート回答の選択肢に「相談する」と「相談しない」が混在しており、さらに複数回答が可能のため、回答する際に児童が混乱している可能性があります。事実「〇〇に相談する」と回答した児童の割合が増加しているにもかかわらず、「相談しない」と回答した児童の割合も増加するといった矛盾が生じていることが要因のひとつと考えられます。今後、改善する予定です。</p> <p>(指標3・4)小中学校において僅かに減少しています。これはコロナ禍において、体験活動などが制限されたことが影響していると考えております。特に、子ども同士の協働的な学びや地域の方々との触れ合いが少なかったため、互いに認め合い、評価し合う機会が減少し、自己有用感が低下したことが考えられます。令和5年度の最新の結果では向上している数値も見られることから、引き続き子ども同士や地域の方との触れ合いを教育活動に活かしていきます。</p>	<p>学校教育課 教育研修所</p>